

2. 研究の実践

(1) 協力教授組織による体育科学習指導計画（展開案）の作成

協力教授による体育の指導は、独自の授業形態と教師の役割分担を持ち、教材の組み合わせ、施設、用具の活用等についても単一教師による単一学級の学習指導には見られない特色をもつので学習指導計画の自校化は必須の要件である。

本校では、市の広域カリキュラムをもとにして、各学年ごとにつぎのような指導計画を作成した。

- ① 領域別指導内容一覧表
- ② 年間教材配当表
- ③ 月別時間配当表
- ④ 各時間ごとの展開案

上記のうち①～③については広域カリキュラムを準用して作成したが、④の毎時間の展開案は、下記の様式により教師の役割分担と指導のねらいを明確にし、いつでも、誰でも活用できるよう配慮して作成したものである。

○展開案の例（3年7月の指導計画第1時）

題材名	泳ぎ（水泳）					1
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・頭から水中にもぐることができるようにする。 ・いろいろな姿勢で浮くことができるようにする。 					
学習活動・内容	時間	形態	T1	T2	T3	T4
1. 沈み方の練習をする。 ○石ひろい ○トンネルくぐり（ローテーションによる。）	20	中	○石ひろいの全体指導。 ○方法の指導。	○石ひろいの個別指導。 ○判定する。	○トンネルくぐりの全体指導。	○トンネルくぐりの個別指導。
			<ul style="list-style-type: none"> ・1～2分の中でいくつひろったか判定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・トンネルの数を多くしたりする。 ・交代でさせる。 	
2. 浮き方の方法を理解し練習する。（5～6人の異質グループ） ○クラゲ浮き ○だるま浮き ○だるま浮きの手をはなし脱力して浮く。	25	小	○全体指導。 ○陸上で形の要領を指導する。 ○頭から水中にもぐれない児童の指導。	○Aグループ	○Bグループ	○Cグループ
			<ul style="list-style-type: none"> ・水中で目をあき膝をかかえ顔を膝につけるようにして体をまるめる。 ・息は水を吞みこむようにして吸う。 ・体の力をぬく。 ・手足を序々に伸ばして浮く。 			

<注>

- 学習形態については児童集団の編成により大、中、小とした。
大＝大集団……学級規模より大きい集団
中＝中集団……1学級程度の人数の集団
小＝小集団……1学級より小さい集団
- 全体指導の役割分担は、教師の特性、教材研究等に応じて交替することとし弾力的に分担を受けもつようにする。
- 学習活動内容には準備運動、整理運動、次時の予告等は常時の活動として展開案から省略した。
- 教授過程における学習形態について学習の効率を考え、どの内容をどの形態で指導にあたるかを検討し弾力的に取り扱うことにより効果的な指導がなされるよう配慮した。

(2) 学習訓練の徹底

協力教授による合併体育を進める場合、教師の役割分担が明確にされることはもちろん、教材の内容と施設、用具の数量を勘案した学習形態（大、中、小集団）の編成やそれらの集合、分解のし方は、授業の効率を左右する大きな要因となる。また、集団の集合、解散、待機のし方、場所の移動などは短時間に行なう必要があるため、次のような全校統一の学習訓練を実践し、授業の効率化をはかった。

	教師の指示	児童の動き
○集合整列	「ピー」手を高くあげ隊列を指で示す 指2本 指4本	2列縦隊 4列縦隊
○前にならえ	「ピーピッ」	
○なおれ	「ピー」	
○説明をきく	「腰をおろせ」	説明者の方に体を向け一斉に腰をおろし両手でひざを抱えて注目
○場所の移動	「○○に移れ」	起立し移動する方向に向きをえかき足で集団ごとに移動する
○学習中の合図	すべて呼笛	

また、学習にのぞむ児童が常に頭におくこととして次のことを理解させ習慣化するよう訓練した。

- ① 目あてをつかむ
- ② 目あてに向かい練習する
 - ためす
 - まねる
- ③ よい人の演技をみる
 - 気づく
 - なおす
 - くふうする
- ④ くりかえす
 - くりかえす
- ⑤ よりよくする
 - こつをつかむ
- ⑥ なるる
 - さらにくりかえす
 - スムーズにできる

(3) 授業研究

研究テーマに迫るため、全学年、全領域にわたって広く研究を進めることは当然であるが、授業研究については学年団ごとに児童の実態に即して、つぎのような研究テーマおよび重点領域を設定した。